

中村哲さん講演会

「アフガンに命の水を」



中村 哲氏

医師でペシャワール会現地代表の中村哲さんの講演会が六月十七日、射水市ラポールで開催されました。主催は「中村哲さんの話を聞く会」(代表・土井由三氏)。協会は「共催団体」として企画・宣伝に協力しました。

講演から

私は向こうで土木作業ばかりしております。医者の仕事をほとんどしていません。なぜ医者が土木工事をしなきゃならなかったか、それが話の中心です。

ペシャワール会とは

ペシャワールはパキスタンの北西部、医療活動はここが拠点です。現在はアフガニスタンのジャラバードという町を拠点に水源拡張事業を行っております。これを財政的に支えるのが日本のペシャワール会で、年間三億円のすべてが全国二万人の寄付者から寄せられています。

山岳地帯、雪解け水、貧富の差

アフガンは国土の三分の二以上が山で占められ、また谷が深いために割拠性が強い。つまり、バラバラということです。それらを統



定員を超えて会場を埋め尽くした参加者

私が行った一九八四年は旧ソ連によるアフガン戦争の真っ只中でした。初めは難民キャンプで活動していましたが、患者がハンセン病でよかつたと言う。なぜかと聞くと、他の病気でこんな親切に診てはもらえないのだそうです。他にマラリア、腸チフス、結核、デング熱、ありとあらゆる感染症も治療しました。一刻も早く治療をしなければ死亡してしまう、このよう

ソ連軍の撤退のあと、一時的な内乱状態を経て次々と難民たちが帰ってきました。それに合わせて私たちはアフガン国内に次々と診療所を建てていきました。ペシャワールの基地病院建設が一九九八年四月、さあ今から腰を据えてやろうというときに襲ったのが世紀の大干ばつでした。村が次々と消えていく。一年前まで緑豊かな穀倉地



ペシャワール医療サービスの活動領域



国境沿いの難民キャンプで

難民キャンプでハンセン病治療

私が行った一九八四年は旧ソ連によるアフガン戦争の真っ只中でした。初めは難民キャンプで活動していましたが、患者がハンセン病でよかつたと言う。なぜかと聞くと、他の病気でこんな親切に診てはもらえないのだそうです。他にマラリア、腸チフス、結核、デング熱、ありとあらゆる感染症も治療しました。一刻も早く治療をしなければ死亡してしまう、このよう

大干ばつで村が消えていった

ソ連軍の撤退のあと、一時的な内乱状態を経て次々と難民たちが帰ってきました。それに合わせて私たちはアフガン国内に次々と診療所を建てていきました。ペシャワールの基地病院建設が一九九八年四月、さあ今から腰を据えてやろうというときに襲ったのが世紀の大干ばつでした。村が次々と消えていく。一年前まで緑豊かな穀倉地



熱を出し意識を失う子ども

二〇〇〇年に始まった干ばつによってどれだけの人の命が失われたことか。多かったのは、子どもの下痢症、赤痢、腸管感染症。診療所に辿りつけるのはまだましな方で、診療所に着く前に子どもが母親の胸の中で冷たくなっていく姿は、ほぼ日常的に見られた光景でした。清潔な飲料水がない、そのために病気がかかりやすい。ご飯が炊けないから、栄養失調が圧倒的に多い。そうすると抵抗力がなく、そのために、ちょっとした下痢で脱水状態を起して死んでしまうということが日常的にあつて、私たちは診療していても虚しいのです。とにかく抗生物質では飢えや渴きは治せない、飢えや渴きを治さな

九・一一のニューヨークのテロ事件が発生すると、ブッシュ大統領が翌月からアフガン空爆を強行しました。あの当時、アメリカの攻撃はピンポイント攻撃でテロリストだけを攻撃する人道的なものだと。そんなことがありうるのか。私たちが見たのは無差別爆撃でした。犠牲になったのはほとんどが子ども、女人、老人、こ



干ばつで砂漠化した農地



上記写真の現在の状態

いど病気が治せない。あるとき水さえあれば、九割以上は病気がならなかった、死ぬことはなかった人々ではないかと思えます。私たちは残った村人を集めまして、清潔な飲料水を求めて井戸を掘り始めました。今に至るまで約一六〇〇カ所に掘って、少なくとも数十万人の村人が、ともかく村を離れずにすんだという事です。

国連制裁、さらに米軍による空爆が... 翌年の二〇〇一年にアフガニスタンに対し国連制裁が行われました。アメリカの駆逐艦に対する自爆攻撃の首謀者とみられたオサマ・ビン・ラディンを、タリバン政権が客として処遇していたというだけで国連制裁が行われたのです。しかし餓死者が百万人というときに食糧を断つという神経はどうなのか。このことはアフガンの人々に外国に対する不信感を植え付けました。

アフガニスタンの八割は農民ですが、その農業用水を確保するということがとてもおぼろげです。アフガンの復興そのものです。そこでクナール川から大きな水路を引こうということで始まったのが二〇〇三年三月に着工した全長二五・五kmのマルワリード水路でありました。

完成して水が通ったとき、乾燥した大地に緑が戻り、人々が戻った。最も工夫したのは水の取り入れ口です。これは斜め堰という方法で、九州の筑後川にある江戸時代の山田堰をそのまま再現しました。

閉会の挨拶を行う核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会(会報七月十五日号に掲載しています)



閉会の挨拶を行う核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会の金井英子世話人代表